

西部地域支え合い 協議会だより



令和4年7月1日発行
発行 西部地域支え合い協議会
発行責任者 小川 光昭
鶴ヶ島市西市民センター1階
☎・fax 049-214-4005



令和4年度の事業取り組み内容について

会長 小川 光昭

春先の気温が高いと、夏の気温も高いと言われています。今年の黒潮は、大きく蛇行していますので気象学的に見ると、関東地方の夏の気温が高くなることが予測されると報道されています。

今年の夏は、温暖化がさらに進み「猛暑日と熱帯夜」に加えて感染症が「拡大か沈静化」か気になりますが、令和4年度事業は、例年通り実施できる場合に対応可能なように計画しておりますが、感染症等の状況により実施の有無、規模、回数等柔軟に適應するように努めます。

令和4年度事業取り組み内容は、下記のとおりです。

	取り組み内容			取り組み内容	
福祉委員会	(1)	助け合い隊 ・助け合い隊活動・情報交換会・講習会、講座開催	組織・広報委員会	(1)	広報活動 ・協議会だより発行(1/4半期に1回程度)
	(2)	見守り活動 ・声かけ運動の実施		(2)	組織強化 ・協力会員募集・事業の周知・体制の構築 ・事業の実施
	(3)	子ども・子育て運動 ・子ども向け事業の実施・学習サロンツムツムの実施		(3)	講演会の開催
防災・防犯委員会	(1)	防災活動 ・防災講演会・研修会の開催及び講演会に参加	事務局 全体事業	(1)	総会の開催
	(2)	防犯活動 ・第四地区青少年健全育成推進協議会との防犯パトロール ・青色回転灯装着車による防犯パトロール ・市民青色防犯パトロール実施に伴う講習会		(2)	幹事会 ・毎月第一水曜日開催
		(3)		他団体等のボランティア活動支援	
		(4)		見学会の実施または視察研修会	



助け合い隊登録会員の改訂について

福祉委員長 長谷川 廣美

福祉委員長を仰せつかっております長谷川廣美と申します。

助け合い隊の活動につきましては西部地域支え合い協議会の皆様をはじめ、多くの方々の深いご理解とご協力をいただき進められましたことを厚く御礼申し上げます。

助け合い隊登録会員の皆様におかれましては、西部地域支え合い協議会発足当初からご協力をいただいている方、あるいは新たに助け合い隊登録会員として、ご協力をいただいた方により構成されておりますが、職場を退職された高齢者の方々が多く、中には活動ができない方も名を連ねている状況にありました。

そこで、この度福祉委員・助け合い隊登録会員の皆様 87名に希望調査を行いましたところ 59名の方から回答がありました。

その内 28名の方が助け合い隊登録会員として、ご協力を頂けることになりました。

活動内容も大部分を網羅し多くの希望に応えられる状況あり、新年度の活動に生かしてまいりたいと考えます。

また回答の中には、今は協力できないが来年からは協力したい、全ての項目で協力出来るなどの嬉しい回答もありました。希望調査にお答えいただきありがとうございました。今後ともご協力よろしく願います。

第6回総会結果

事務局長 大場 一石

会員および関係者の皆様にはすでに通知が郵送されているとおり、4月24日、第6回総会は、昨年続き委任状形式で実施されました。

結果、会員総数110名に対し有効委任状数74通を得ることができ、3議案の成立を得て終了いたしました。3年度のご支援、ご協力など、役員一同心より感謝いたしております。ありがとうございました。

寄せられた意見書は、より分かりやすい表現等のご指導、誤字脱字のご指摘があり、次年度の資料作成に役立てさせて頂きたいと思っております。また、感染症の状況であっても確実な予防措置をとり、工夫と努力でいくつかの行事は、実施できたのではないかとのご意見も頂戴いたしました。この件については、我々役員も国や市の行事に対する対応などを参考に、感染の状況を見つつ検討を重ねて参りましたが、実施に及ばず皆様にも残念な思いをおかけしたことを心からお詫び申し上げます。なお、激励のお言葉もいただきました。今年度も前向きに進むために大変うれしく思っております。

令和4年度こそ、皆様のお声を直接お聞きできる総会が開けるよう、できる限り健康で過ごしたいと思っております。今後とも、ご指導をお願いいたします。

今回、私たちと一緒に、高齢者の皆様の毎日を支援している「地域包括支援センターかんえつ」さんから投稿をいただきましたので紹介します。

地域包括支援センターは地域の身近な相談窓口です。

センター長 藤野 和江

地域包括支援センターは高齢者の皆様が住みなれた地域で安心して生活を続けられるように、必要な支援を行う総合相談機関です。保健師(看護師)・主任ケアマネジャー・社会福祉士等が中心となり、介護に関するもののほか、健康や福祉、医療に関する様々な相談に対応しています。



関越病院南館 1階にあります。

地域包括支援センターかんえつ のご紹介

地域包括支援センターは鶴ヶ島市内4か所に設置されています。その中の西部地区を担当しているのが「地域包括支援センターかんえつ」です。

《場所》

鶴ヶ島市脚折145番地1 関越病院南館 1階

《受付時間》

平日・土曜日 8:30~17:15

《連絡先》 TEL 049-285-7877

FAX 049-285-7866

センターには専門職が配置されています。



主任ケアマネジャー

社会福祉士

看護師



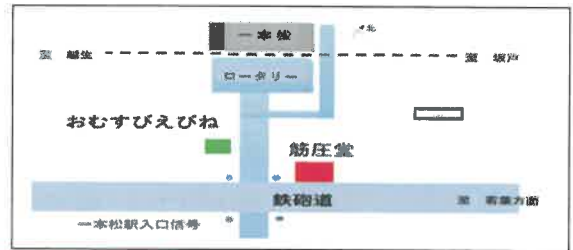
センターにお越し頂いての相談が難しい場合は、訪問も致します。相談内容に応じて、地域支え合い協議会との連携、他の適切な機関へつなぐ支援も行います。

《どんな事を相談したらよいのか》

・最近、物忘れが増えてきて心配、足腰が弱くなってきたので体力を維持したい、地域で交流できるサロンや教室を教えてください、近所で高齢者を怒鳴っているような声がする家がある・・・等
お困りのことがありましたら、お気軽にご連絡をください。

『西部地域支え合い協議会だより』のありがとう券支援店紹介欄は、皆様のお役に立っているのでしょうか？毎日が、少しでも明るくなれば、うれしいです。

今回は、東武越生線一本松駅の近く、南側に位置する2店舗を紹介します。



筋圧堂整骨院

中新田 1523-1

☎ 049-279-5554

当院は2002年の開院より20年目となりました。ここまで長く続ける事ができたのも地域の皆様の支えがあつての事だと思っております。

西部地区ボランティアの皆様の活動も本誌を通じて拝見させていただき『ありがとう券』も患者様に使っていただいております。

さて当院は骨折、捻挫、肩や腰、膝などの様々な痛みのある方々に来院していただいております。痛みに関する事であれば、なんでもご相談ください。

開院よりいつも心がけている事は、『おかげさま』の心と『感謝』の気持ちです。これからも地域の皆様の健康のために貢献出来ますよう頑張っておりますのでよろしくお願い致します。

(診療時間 平日9時～13時、16時～20時 土曜日曜9時～13時 水曜、祝日は休診となります。)



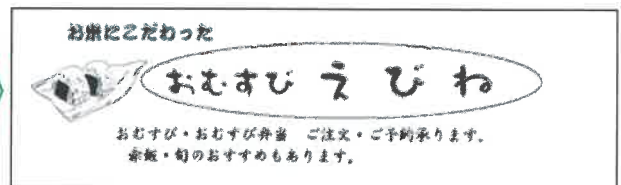
筋圧堂さん



えびねさん



炊きたてのコシヒカリです。



おむすび えびね

中新田 385-6

☎049-286-5667

1

「おむすび えびね」について、店長兼アンバサダーの私がだいたい説明をします。「えびね」という名称は、創業者の私の母が大好きで大切に育てていたラン科の多年草『エビネ』からとりました。花言葉は『謙虚』という意味だそうです。暖かいおむすびにぴったりの名前です。

開業は、2005年です。主役のお米は、新潟県産コシヒカリにこだわって使っています。脇役のお惣菜は、唐揚げ、煮物、おひたし、漬物など和食が基本の家庭料理を作っています。営業日は、月・火・木・金・土曜日の午前10時から、午後3時までです。おいしいおむすびを食べてほっこりしてください。

お気軽に、ご来店お待ちしております。

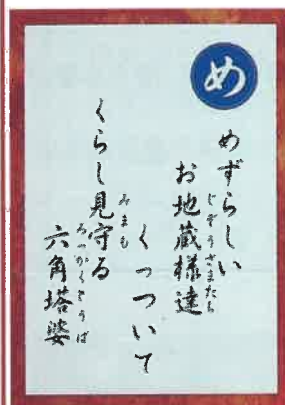
ありがとう券支援店新規登録店のお知らせ

5月に、新しくありがとう券支援店に『ロコリハ Grow(株)』(日高市駒寺野新田 44-61 ☎(042-980-5672)さんが登録していただきました。業態は、シニア向けアミューズメント トレーニングジムです。詳細は、ホームページ <http://grow-life.info> までお願いします。西部地域支え合い協議会へのご支援ありがとうございます。

読者の皆様も、すてきなお店を見つけたら、ぜひ西市民センター内の事務所 (049-214-4005) までお声がけください。よろしくお願いします。

西部地域歴史散策

一村を守る六人のお地藏様 六角搭婆(ろっかくとうば)



「未来を拓く つるがしま郷土かるた」
「め」の札が「六角搭婆」です。

六角搭婆は、市の指定文化財で江戸時代(1665年)に建てられた六角形をした石造のお地藏様です。地元では六地藏とも呼ばれ、河岸街道(かしかいどう)と上新田から中新田への道の分岐点に昔からの姿で残されています。古くからの集落や街道筋、道の分岐点などには石碑や石塔、あるいは石仏があっても、何気なく通り過ぎてしまいますが、それぞれには建てられたときの意味や建てた人々の思いがあり、今回は六角搭婆を通して、勉強してみたいと思います。

● 道祖神・庚申様と呼ばれる守り神

道路や交通手段が発達しておらず、生まれた村で一生を終える人がほとんどだった時代には、天災、疫病の流行など人の力ではどうしようもない運命は、神様にすがしか方法はありませんでした。これらの災いは、村の外からやってくると信じられていたため、人々は、村の境界に村の守り神を建てました。この神様が道祖神や庚申様で、番人の役目から、不老長生・子孫繁栄・五穀豊穡など生活に密着したいろんなご利益がある神様となっていました。

● お地藏様

地藏菩薩(じぞうぼさつ)は、仏教の信仰対象である菩薩の一尊です。釈尊が入滅してから弥勒菩薩が成仏するまでの無仏時代の衆生を救済することを釈迦から委ねられたといわれています。

日本における民間信仰では、道祖神としての性格を持つとともに、「子供の守り神」として信じられており、よく子供が喜ぶ菓子が供えられています。一般的に、「お地藏さん」、「お地藏様」と呼ばれて親しまれています。

お地藏さんは、日本各地にたくさんあって、他の仏像で、これほど身近に生活の中で、目にするものはありませんね。それは、お地藏さんが、前に述べた日本古来の道祖神信仰・庚申信仰と結びついたからなのです。

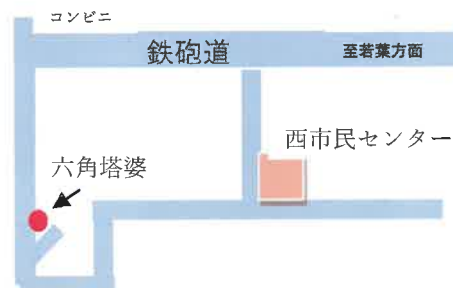
● なぜお地藏さまは六体なの？

仏教の世界では、人は良い行いをしていけば極楽へ行けるが、悪いことをしていると地獄へおちるといわれます。極楽から地獄までには、天道を頂点に、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道からなる六つの世界があり、人間界での生前の行い次第で、次の行先が決まるといわれています。この考え方を「六道輪廻(ろくどうりんね)」といい、人は亡くなると、どの世界に生まれ変わるか、審判を受けます。程度の違いはありますが、どの世界も苦しみから逃れることはできません。本来、仏教の目的は、悟りを開いてこの六道の輪廻転生から抜け出すことにありました。

地藏菩薩は、手を合わせた者の身代わりとなって地獄の苦しみから救うだけでなく、死者が生まれ変わる六つの世界すべてを巡って救済を行うと考えられています。そのためにもいつも六体なのですね。

● 六角搭婆

今回は、昔の人々が自分たちの努力では、解決できない災いにどのように救いを求めていたか、その証(あかし)の一つとして六角搭婆を見てきました。このような何百と作られた民間信仰の遺跡は、身近なため、かえって大切に保存されず、開墾や道路の拡張などで作られた当時のままに残されたものが少なくなっていました。六角搭婆は、大正時代頃までは、縁日に芝居や出店が出て、この地は大いに賑わったということですが、歴史の隙間に当時のまま残された貴重な昔の人々の願いが感じられる史跡です。これからも、大切に見守りたいものです。



六角搭婆の位置 簡単イラスト
西市民センターから徒歩10分位



疫病退散

5月29日に、鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会と社会福祉協議会が主催する歴史散歩が、六角搭婆で催されました。良い機会でしたので、私たちも協力させていただきました。20名ほどの参加者の皆様と実際に、散歩してきました。猛暑のため、自己紹介や体操は、帰った後西市民センター内で行いました。暑さの中、体調を崩す方も出ず、楽しいイベントができました。

